

## 優秀賞

ゆう気のわりばし

山口県 岩田小学校 二年  
森山 愛梨

わたしが一年生だったときのことです。二年生といっしょに下校していた日、お友だちとわかれるところにつくと、お友だちがいきなりないてしまいました。わたしが、

「どうしたの?」と聞くと、

「一人でさみしい。」と言いました。

わたしとわかれた後、そのお友だちは家まで一人で帰っています。わたしと二年生は、

「がんばって。」

「おかあさんがまってるよ。」

と言ってはげましましたが、お友だちはずっとないていました。

どんどん帰る時間がおそくなって、きっとわたしのお母さんもしんぱいしていると思いました。「どうしよう」とこまっていると、わたしはお友だちが、下校中にすなの中におちていたわりばしをひろって、手にもっているのを見ました。わたしは、

「そのわりばしは、ゆう気のわりばしだよ。もっていたら、おうちまで帰れるよ。」

と言いました。

お友だちはまだないていたけれど、がんばって、わりばしをにぎったまま帰っていきました。

家にかえるとお母さんが、

「おそかったね。しんぱいで、むかえに行こうかと思ってたんだよ。何かあったの。」

と言ったので、わたしは、お友だちがなくてかえるのがおそくなったことを話しました。お母さんは、

「なっていた子が帰れるまで、いっしょにいてあげたんだね。」

と言いました。

「あいちゃんは、やさしいね。でも、おそくなったらしんぱいするから、どうしようかね。」

と言いました。

その後、しばらくして、お母さんが先生に学校のべつのことで電話をしました。そして、電話を切った後、わたしに、

「この前、お友だちがなくておそくなったって言った日があったよね。あの日あいちゃんが、おちていたわりばしに『ゆう気のわりばし』って名前をつけたの? あの後、お友だちはそのわりばしを、おうちのげんかんに、だいじに立てかけてくれているんだって。すごいよ。なかなかできることじゃないよ。」

と言いました。

わたしはびっくりして、とてもうれしくなりました。わたしのしたことを、お友だちはとてもよろこんでいてくれたとわかったからです。

今、わたしは二年生です。一年生が楽しく下校できるように、これからも人にやさしくしたいです。